

平成14年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	生活環境部環境課	直通電話	72-3240	事業コード	201060103	課内	7	作成日	平成15年8月15日
		担当者	鈴木 正利	担当課長	有田英之	担当部長	吉田保雄		

1 事業のアウトライン

1) 事業名	化学物質状況調査事業	開始年度	H13	終了年度	未定								
		最近の事業内容見直し年度											
2) 総合開発計画での事業体系	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 10%;">施策コード</th> <th style="width: 90%;">大項目 / 小項目 / 細項目</th> </tr> <tr> <td>2010601</td> <td>快適環境の創造 / 産業公害の未然防止</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>					施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目	2010601	快適環境の創造 / 産業公害の未然防止				
施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目												
2010601	快適環境の創造 / 産業公害の未然防止												
3) 個別計画での位置付け	「石狩市環境基本計画」												

2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	有害性の高い化学物質による環境汚染を防止し、安全・安心して生活できる環境を維持・創出する。
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	ダイオキシン類など、有害化学物質の環境中への排出状況を計画的に調査し、監視することにより、環境基準との適合状況を確認する。
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	ダイオキシン類対策特別措置法第27条に基づき、北海道・市が協議を行い、役割分担のもとに調査を実施している。北海道においては、大気測定(年4回)実施。石狩市においては、石狩川及び茨戸川における水質(2地点)・底質(2地点)、紅葉山公園(夏季・冬季の2回)における大気の測定調査を実施し、「環境白書」に掲載し、公表。
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	特になし
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	近年、廃棄物焼却施設等に伴うダイオキシン類等の環境汚染が大きな問題となっている。
6) 事業の立案や実施などへの市民参加	特になし
7) 評価中間公表への市民意見	なし

3 事業に投入した行政資源

項目	H12	H13	H14	H15 予算	H14 事業費の主な内訳	金額(千円)
1) 直接事業費(千円)	0	1,985	779	1,670	ダイオキシン類測定調査(委託料)	772
2) その他の間接経費(千円)					事務用(消耗品)	7
3) 従事正職員の人件費(千円)		829	824			
総事業費(1~3の合計;千円)		2,814	1,603			
総事業費中の一般財源(千円)		2,814	1,603			
市民一人当たり一般財源使用額(円)		51	29			
事務に従事した正職員のべ人数		0.10人	0.10人			
					H14 主な特定財源の内訳	金額(千円)

4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	
河川水・地下水・土壌・大気・測定地点数(箇所)	目標値		7	4	6	測定計画並びに測定実施地点数 算定式 測定実施地点数 / 測定計画地点数
	実績値		7	4		
	達成率		100.0%	100.0%		
	目標値				/	
	実績値					
	達成率					
	目標値				/	
	実績値					
	達成率					

5 事業の成果

事業名：化学物質状況調査事業

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
環境基準達成地点数 (箇所)	目標値		7	4	6	環境基準を超えていない割合。 算定式 環境基準達成地点数 / 環境基準達成目標地点数	ダイオキシン類測定 調査委託 業務結果 報告書
	実績値		7	4	目標レベル		
	達成率		100.0%	100.0%			
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					

6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	[課長評価]	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
[評価ポイント] 活動結果や活動効率、 事業改善等の効果はどうだったか	全点で、計画どおり調査を実施した。				
2) 有効性・必要性	[課長評価]	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
[評価ポイント] その事業は事業目的の 達成に効果があるか、また、 市民(対象者)に必要な とされているか	様々な化学物質が使用される中、特に有害性の高い化学物質に対する市民の不安を解消するため、市が調査を実施することは、有効かつ必要である。				
3) 市関与の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] その事業に市が関与する 必要があるか、市がどこ まで関与するのが適当か	有害化学物質に対する市民の不安を解消するために、北海道との役割分担の下に、市が有害化学物質の環境中濃度を把握し、公表することは、一定の妥当性がある。				
4) 事業内容の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] 目指す成果を挙げるため には今の事業内容が適 当か、受益と負担の関 係に不公平はないか	排出源については、事業者の自主測定、行政の立ち入り検査がされており、市が環境中の挙動を把握することは一定の妥当性がある。				

7 平成14年度事業の総合評価

[評点の意味] A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	[課長評価]	A	[最終評価]	A (前年度)
	環境中のダイオキシン類濃度は、計画どおり実施し、全地点で環境基準に適合しており、目的を達成できた。		ごみの適正処理と野焼きの防止の指導強化などの取り組みが効果をもたらしている。	

8 今後の方向性・課題

担当課長 評価	ダイオキシン類対策は、環境中濃度の監視のほか、一層の排出源の監視強化を進めていくが、環境ホルモン等その他の有害化学物質対策も必要である。
最終評価	市民、事業者は、日常生活、事業活動における様々な行動が環境に及ぼす影響を正しく認識し、できるだけ環境へ負荷を与えない生活スタイル、行動を選択するよう環境学習、白書などで情報を提供して行きます。

9 平成16年度の方向性

* ; 担当課長 ; 最終評価	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
事業 規模	拡大方向		
	現状維持	*	
	縮小方向		
	統 合		
上 に つ い て の 説 明	休・廃止		